

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

オホーツク管内 大空町立東藻琴中学校

■本実践のポイント（概要）

- 生徒にふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、民族共生象徴空間「ウポポイ」の施設見学や体験活動を位置付けるとともに、地域の歴史や文化等との関連を図りながら調べ学習を行い、学習した成果のまとめ・発表・生徒同士での評価を通して、アイヌの人たちの歴史・文化等について探究的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

「言語」「住」「食」「音楽/舞踊」の4つのテーマの中から興味のあるテーマを選択し、グループごとに共通のテーマである「アイヌの人たちの歴史」を踏まえた探究的な課題を設定しました。

(2) 情報の収集

1人1台端末を活用し、テーマに基づいて調べ学習を行いました。調べた内容を踏まえ、目的意識を明確にして民族共生象徴空間「ウポポイ」の見学を行うことにより、必要な情報を得ました。

(3) 整理・分析

アイヌの人たちは長い間差別を受けてきた歴史があること、言語・住・食・音楽(舞踊)において自然と密接な関わりがあること等について学びました。

(4) まとめ・表現

各グループが調べた内容を、スライド資料にまとめ、第2学年に対して発表会を行いました。発表を行うことで、テーマごとの内容について交流し、アイヌの歴史・文化等について理解を深めました。

②生徒の感想等

- アイヌの人たちの歴史・文化等については、社会科の授業等で学んでいたが、実際に施設を見学したことにより、アイヌの人たちの文化について、より深く知ることができました。
- 「シノッ」を実際に見ることにより、歌や踊りがどのようなものなのかを知ることができました。



【調べ学習の様子】



【ウポポイでの舞台鑑賞の様子】



【発表会の様子】

■取組の成果（○）と課題（●）

- 生徒一人一人が興味にあったテーマを設定してアイヌの人たちの歴史・文化等を学習することにより、「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と回答した生徒の割合が52.4%から89.5%、「今、住んでいる地域の行事に参加しようと思う」と回答した生徒の割合が43.4%から68.5%に増加し、地域についての興味・関心を高めることができました。
- 民族共生象徴空間「ウポポイ」で、展示物を実際に見たり、歌や踊りを鑑賞したりすることにより、教科書では得られない情報が得られ、アイヌの歴史や文化について、「もっとみたい」「もっと知りたい」といった生徒の意欲向上を図ることができました。
- アイヌの人たちの歴史・文化等の学びを深められるよう、総合的な学習の時間と他の教科との関連を一層図り、各学年で段階的に学習を進めていく必要があります。また、小学校での学びを踏まえ、学習内容を発展させることができるよう、小学校との連携を図る必要があります。